

2012. 6. 27

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2012年 第1四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その
「概要」をお届けします。
ご高覧下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

本資料のご利用について

1. 本資料で使用した略号

0：単位未満、－：皆無または該当数値なし、
…：不詳、F：フィラメント、S：ステープル、
T：トウ、SM：平方寸

2. グラフ、表など統計数字の主な出所

国内：経済産業省、財務省、日本銀行、日本経済新聞社
海外：Fiber Economics Bureau, Inc.、C I R F S、
韓国化繊協会、台湾人繊公会、中国紡織工業協会ほか

3. 内容についてのお問合せ先

日本化学繊維協会 業務調査グループ

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-1-11 (繊維会館)

TEL 03-3241-2313 FAX 03-3246-0823

概 要 (2012 年第 1 四半期)

2012 年 1-3 月のわが国の景気は、各種の政策効果などを背景に、緩やかに持ち直しているが、欧州の債務危機の影響や電力供給の制約が懸念された。

化繊景況は、自動車関連需要は回復してきたものの、衣料用やインテリア用は製品輸入の増加が続くなか、力強さに欠ける。これまでけん引役であった高密度織物向けも減速、化繊生産は前年比 3.3 減の 24.7 万ト^ンであった。

国 内

1) 国内景気は、復興需要に加え個人消費が底堅く、生産および設備投資も上向いているが、欧州の債務危機、中国・新興国の景気減速など、海外景気の下振れリスクによる影響が懸念された。

繊維景況は、12 年 1-3 月期の百貨店の衣料品販売が前年比 5.7%増となったが、東日本大震災による大幅減の反動要因が大きく、底打ちから回復傾向にあるとは言い難い。化繊は、これまで堅調であった高密度織物使いのダウンジャケットやアウトドアが、生産過多による在庫の増加、長引く円高で欧米向け輸出の採算悪化や韓国品の台頭で陰りが出てきた。店頭販売動向が注目された保温肌着は、予定数を概ね販売できた模様である。カーテン、カーペットは、昨年 7 月前後の住宅着工件数の大幅増加により、今期待されたが、製品輸入が主体となったと思われ、盛り上がり欠けた。タイヤコード、カーシート、シートベルト、エアバッグ等の自動車関連用途は、エコカー補助金が復活する中、自動車の増産（前年比 45.6%増）を背景に堅調な展開となった。網類では漁網が復興需要で増加しているが、架設資材関係は、足下の一般公共投資の削減で低位が続いた。

2) 生産指数は、繊維工業全体では前年比 2.4%減、前期比 0.1%減、化繊は 4.3%減、2.7%増。紡績は 4.2%減、3.2%減と、化繊が前期比増加した以外はどれも減少した。また、在庫指数（期末）は、繊維工業全体が前期比 0.3%減、化繊 3.3%減、紡績 0.5%減といずれも減少した。（生産、在庫とも指数ベースの比較）

3) 繊維品輸出は、ドルベースで 23.8 億^{ドル}・前年比 4.9%増。また円ベースでも 1,894 億円・1.4%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料・前年比 5.4%増、糸類・6.6%増、織物類・8.4%増、二次製品他・1.4%増でいずれも増加した。仕向地別（ドルベース）では、全体の 35%を占める中国が 8.3 億^{ドル}・0.1%減、香港（12.1%減）、韓国（6.2%減）、台湾（10.8%減）は減少したが、アセアン地域は、タイ（27.5%増）・インド

ネシア（10.1%増）・マレーシア（1.5%増）・ベトナム（16.9%増）といずれも増加した。それ以外では米州（16.5%増）、西アジア（16.7%増）は増加したが、欧州（5.7%減）は低調であった。

4) 繊維品輸入は、ドルベースで102.0億ドル、前年比7.9%増、また円ベースも8,090億円・4.0%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料は2.0億ドル・10.5%減、糸類3.6億ドル・9.3%減、織物3.7億ドル・0.7%増、二次製品他92.8億ドル・9.5%増。仕出地別では、全体の71%を占める中国が5.0%増の72.4億ドル、アセアン地域もベトナム（30.5%増）、インドネシア（30.0%増）、タイ（2.6%増）などの増加により全体では27.1%増の14.2億ドルとなった。その他では、イタリア2.8億ドル（2.2%増）、韓国1.8億ドル（6.4%減）、米国1.5億ドル（12.5%減）となった。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	11.1-3	11.10-12	12.1-3	前年比(%)	前期比(%)
輸出	千ドル	2,270,032	2,727,893	2,382,112	4.9	-12.7
計	百万円	186,762	211,123	189,367	1.4	-10.3
繊維原料	千ドル	404,817	415,205	426,757	5.4	2.8
糸類	〃	316,014	355,960	336,811	6.6	-5.4
織物類	〃	683,794	943,326	741,226	8.4	-21.4
二次製品他	〃	865,406	1,013,403	877,318	1.4	-13.4
輸入	千ドル	9,456,238	11,199,135	10,201,914	7.9	-8.9
計	百万円	778,180	866,154	809,018	4.0	-6.6
繊維原料	千ドル	220,376	208,583	197,208	-10.5	-5.5
糸類	〃	392,831	380,971	356,258	-9.3	-6.5
織物類	〃	365,852	406,620	368,393	0.7	-9.4
二次製品他	〃	8,477,178	10,202,961	9,280,054	9.5	-9.0
(うち衣類)	〃	(7,228,167)	(8,581,663)	(7,884,210)	9.1	-8.1
輸出レート	円/ドル	82.3	77.4	79.5	-3.4	2.7
輸入レート	円/ドル	82.3	77.3	79.3	-3.6	2.5

(出所) 財務省

5) 化繊生産は24.7万トン・前年比3.3%減、前期比0.1%増、うちセルロース繊維は4.4万トン・0.3%減、8.6%増。合繊は20.3万トン・4.0%減、1.6%減、期末在庫は、前年比3.7%増、前期比8.7%減、うちセルロース繊維が0.3%増、4.3%増、合繊が4.5%増、11.0%減であった。

化繊輸出（繊維原料～二次製品）は16.2万トン・前年比0.9%増。うち、繊維原料は8.4万トン・0.7%減、糸類3.0万トン・0.1%増、織物類（面積ベース）1.52億㎡・8.9%増、二次製品2.2万トン・5.3%増であった。レーヨンSは35.5%減、ナイロンF31.5%増、

ポリエステルF 1.6%増、ポリエステルS 15.0%減、アクリルS 9.4%増、織物類（面積ベース）ナイロンF織物 26.6%増、ポリエステルF織物 8.8%増、ポリエステルS織物 6.1%増となった。

化繊輸入（繊維原料～二次製品）は 32.2 万トﾝ・前年比 5.4%増。繊維原料 1.3 万トﾝ・15.2%減、糸類 5.1 万トﾝ・5.0%減、織物（面積ベース）1.66 億㎡・2.8%増、二次製品 23.1 万トﾝ・9.0%増、うち衣類 11.7 万トﾝ・9.7%増となった。ナイロンF 15.7%減、ポリエステルF 2.0%減、ポリエステルS 10.0%減、ポリエステル紡績糸 22.9%減、織物類（面積）ポリエステルF織物 2.3%増、ポリエステルS織物 3.2%減であった。

化学繊維の主要指標

項目	単位	11. 1-3	11. 10-12	12. 1-3	前年比 (%)	前期比 (%)
化繊生産	千トﾝ	255.4	246.7	246.9	-3.3	0.1
セルロース	〃	44.0	40.4	43.9	-0.3	8.6
合 織	〃	211.4	206.3	203.0	-4.0	-1.6
化繊在庫	〃	85.7	97.4	88.9	3.7	-8.7
セルロース	〃	15.2	14.6	15.2	0.3	4.3
合 織	〃	70.6	82.9	73.7	4.5	-11.0
化繊輸出	千トﾝ	160.3	164.5	161.7	0.9	-1.7
	100万ドル	1,408.0	1,721.4	1,526.1	8.4	-11.3
	億円	1,158.4	1,332.3	1,213.6	4.8	-8.9
繊維原料	千トﾝ	84.3	77.1	83.7	-0.7	8.6
糸 類	〃	30.1	31.0	30.1	0.1	-3.0
織物類	百万㎡	139.4	176.7	151.9	8.9	-14.1
二次製品	千トﾝ	21.3	18.0	22.4	5.3	24.6
化繊輸入	千トﾝ	305.8	409.9	322.4	5.4	-21.4
	100万ドル	3,838.7	5,823.1	4,416.1	15.0	-24.2
	億円	3,159.2	4,502.9	3,500.0	10.8	-22.3
繊維原料	千トﾝ	14.9	16.1	12.7	-15.2	-21.2
糸 類	〃	53.2	51.3	50.5	-5.0	-1.5
織物類	百万㎡	161.2	171.1	165.7	2.8	-3.2
二次製品他	千トﾝ	212.1	314.0	231.3	9.0	-26.3
(うち衣類)	〃	(106.8)	(180.8)	(117.1)	9.7	-35.2

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合織品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は 42,643 トﾝ・前年比 6.0%減。織物生産は 10,501 万㎡・5.6%増。衣料用途は、ダウンジャケットやアウトドアなどの高密度織物が生産過多による在庫増や長引く円高で欧米向け輸出の採算悪化、また海外市場で韓国品への代替が進み苦戦した。裏地は、紳士用がリクルート向けを除くと、クールビスの影響で盛り上がりには欠けた。自動車関連用途のタイヤコード、カーシート、シートベルト、ゴム資材は自動車の増産で回復した。ただ、タイヤコードは織物の輸入増加が続い

ていることが懸念される。カーテンは、一般家庭用が遮熱カーテンを除き低調。網類は漁網が復興需要向けで増加しているが架設資材用は低調が続く。

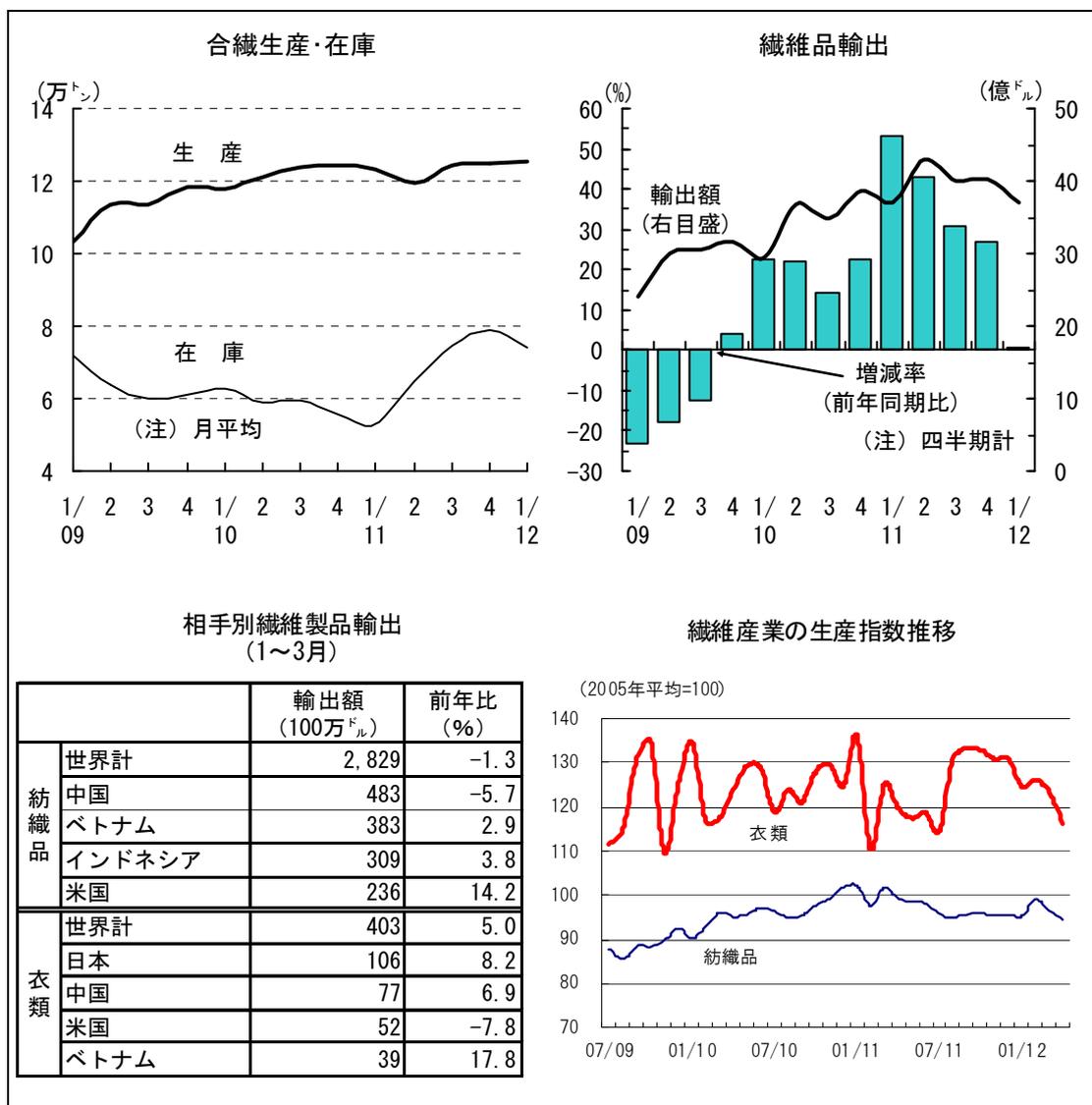
ポリエステルS：生産は 39,261 トンで前年をやや下回った。紡績用は綿混のユニフォーム向けが製品在庫の増加で鈍化、震災需要が続いていたレーヨン混、ウール混も一服気味となった。製綿用は、ふとん製品の増加と高水準の原綿輸入で厳しい環境が続く、国内製綿業者は製品価格の低下に合わせて、安価な輸入品をメインに扱うようになった。不織布用では、衛材、生活資材が順調であったが、衛材は外資系衛材メーカーの攻勢、生活資材は輸入原反の増加が懸念される。海外での水処理関係向けが多い湿式不織布は順調に推移した。自動車用は、生産台数の増加で比較的順調であった。

ナイロンF：生産は 25,112 トン、前年比 5.7%増。織物生産は 3,683 万㎡・15.4%増。衣料用は、プレーンパンストが大手レッグメーカーの積極的な販促もあり堅調。レギンス・トレンカはトレンド商品から、実需用品として定着した。大手SPAが注力した超軽量ダウンジャケットの販売は好調に終わった。輸出比率の高いアウトドアは、欧州の景気減速や長引く円高で陰りが出てきた。自動車関連では、タイヤコード、エアバッグが自動車の増産で回復基調を辿った。タイルカーペットは、震災の影響で新築ビルの竣工が遅れ低調が続いたが年度末になって動き出した。

アクリルS：生産は 36,030 トンで前年並み。紡績糸生産は 2,635 トン・前年比微増。注目された保温肌着の店頭販売状況は、昨年末から年初の冷え込みで大手量販店の一部を除き、概ね販売目標を達成した模様。2012年シーズンに向けて、保温肌着用を中心に海外紡績・縫製スペース確保からステーブルの販売が前倒しで進んだ。靴下も大手SPAが積極的に取組み、マフラー、レッグウォーマーの需要も拡大した。ステーブル輸出は、主力の中国向けが 20,552 トン・15.6%増と好調、昨年11月のAN価格の底打ちを転機に同国内の需要が増加した。イランは一層の経済制裁強化により、不振が続いている。

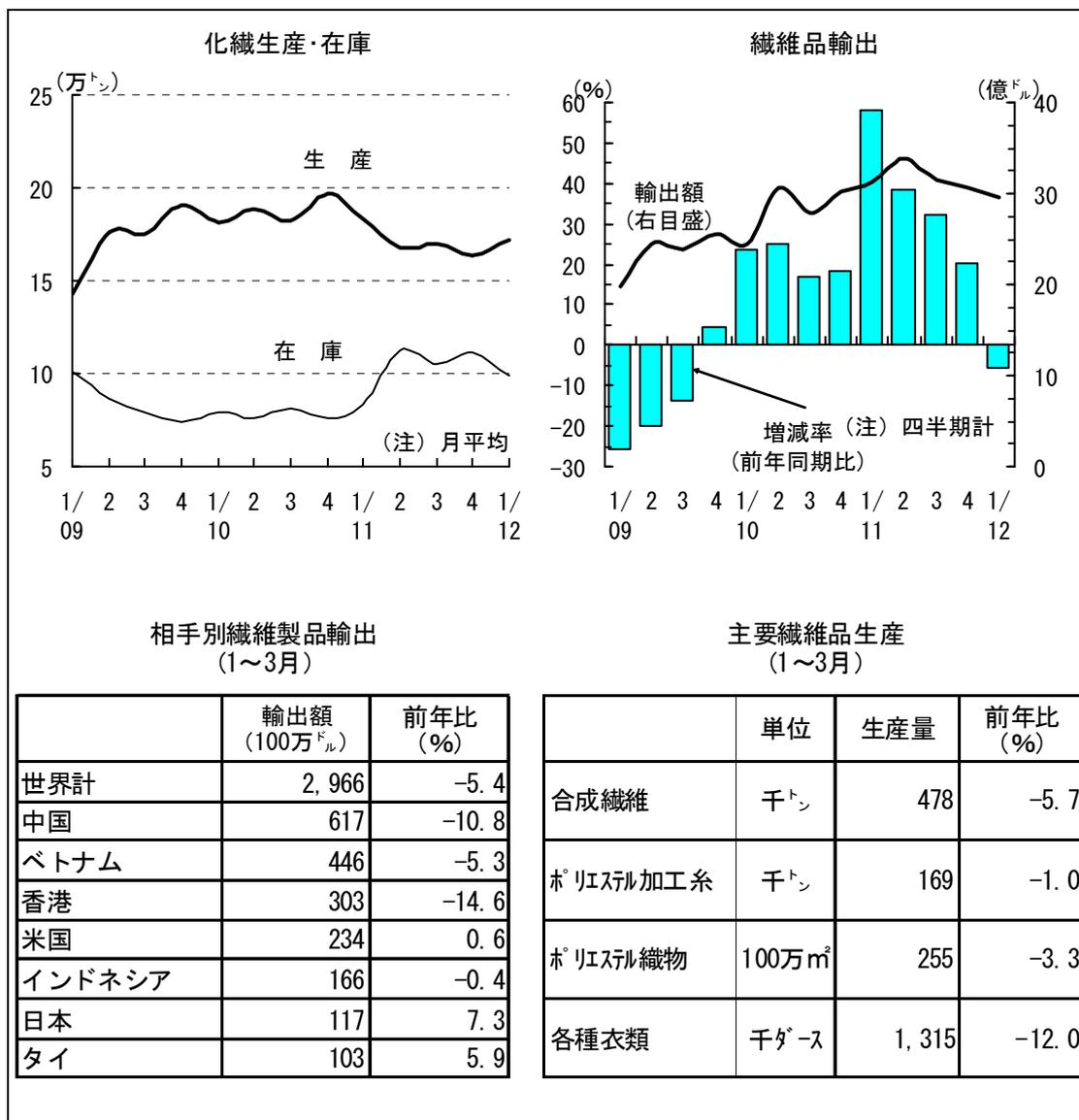
II. 海外の動向

1. 韓 国



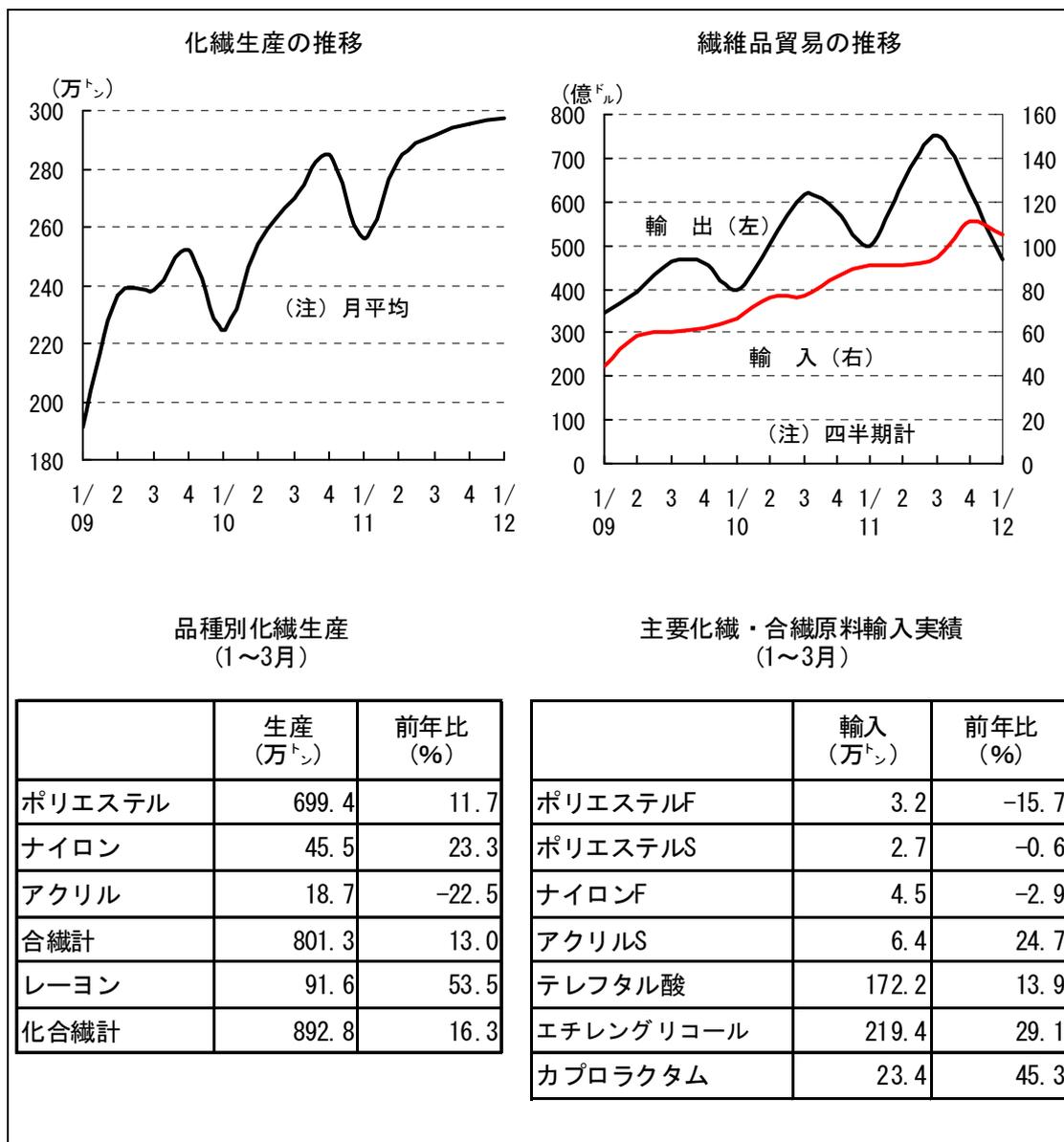
- ◆合繊生産は、繊維品輸出とも前年同期比微増となった。
- ◆合繊生産（1-3月、以下同様）は前年同期比1.9%増の37.6万トン。一方で、期末在庫は前年同月比48%増と2011年以降在庫は高水準である。
- ◆繊維品輸出は前年同期比0.6%増の37.1億ドル、わずかながら8期連続で前年実績を上回った。相手別にみると、紡織品では、ベトナム、インドネシア向けが引続き増加したが、中国向けは減少に転じた。衣類では、米国向けが減少した。3月、米韓FTAが発効したほか、5月には中国とのFTA交渉を開始することで合意した。
- ◆直近（2012年4月）の繊維品の生産指数をみると、紡織品は前年同月比4.6%減、衣類は2.8%減とともに減少となった。

2. 台 湾



- ◆合繊生産は3期連続の減産、繊維品輸出は10期ぶりの前年実績割れと、繊維産業の業況は厳しいものとなった。
- ◆化合繊生産(1-3月、以下同様)は前年同期比6.1%減の51.7万トンとなった。品種別にみると、ナイロンFは1.9%減の8.4万トン、ポリエステルFは5.0%減の25.1万トン、同Sは9.7%減の13.6万トン、アクリルSは9.9%減の2.4万トンといずれも減少した。合繊の期末在庫は前年同期比8.3%増となった。
- ◆繊維品輸出は、前年同期比5.4%減の29.7億ドル、10期ぶりに前年実績を下回った。主力の中国向けは10.8%減となったほか、これまで好調であったベトナム向けも5.3%減と減少に転じた。
- ◆主要繊維品の生産は軒並み前年実績割れとなった。ポリエステル加工糸、ポリエステル織物、衣類生産はそれぞれ1.0%減、3.3%減、12.0%減となった。

3. 中 国



- ◆ 繊維生産、内需とも拡大している一方、繊維品輸出は減少に転じた。
- ◆ 第1四半期（1-3月）の化繊生産は16.3%増の893万トとなった。品種別には主力のポリエステルは11.7%増の699万ト、ナイロンは23.3%増の46万ト、アクリルは22.5%減の19万ト、レーヨンは53.5%増の92万トとなった。
- ◆ 繊維品輸出（1-3月、以下同様）は前年同期比5.8%減の468億ドル、8期ぶりの前年実績割れとなった。一方、繊維品輸入は14.9%増の105億ドルとなった。
- ◆ 主要化繊の輸入をみると、ポリエステルは、Fが15.7%減、Sは0.6%減、ナイロンFは2.9%減と減少したが、アクリルSは24.7%増となった。合繊原料輸入は、テレフタル酸は13.9%増、エチレングリコールは29.1%増、カプロラクタムは45.3%増といずれも大幅増となった。

相手別繊維製品輸出 (1~3月)			繊維業界の主要指標 (1~4月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	516	3.4	企業数	万社	3.7	-
アジア	230	4.5	赤字企業数	万社	0.7	36.8
香港	33	-2.0	主要業務収入	億元	16,167	11.3
日本	65	8.4	利潤総額	億元	721	-2.3
韓国	13	-11.7	工業総生産額	億元	16,771	13.1
アセアン	46	20.1	就業人数	万人	963	-0.6
EU	97	-8.1	繊維産業実際投資	億元	987	17.1
米国	79	11.3	うち化繊産業	億元	229	24.6

社会小売財消費総額 (1~3月)				繊維関連物消費者物価指数 (1~3月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同月比 (%)
商品売上総額	億元	49,319	14.8	消費者価格指数・全製品	3.8
うち繊維品等	億元	2,409	14.6	消費者価格指数・衣類等	3.6

- ◆2012年1-3月の相手別の繊維製品輸出をみると、最大の仕向地であるEU向けは、域内の景気が不透明さを増したこともあり8.1%減となった。米国向け、日本向けはそれぞれ11.3%増、8.4%増で堅調に推移、アセアン向けは20.1%増と引続き大幅な増加となった。
- ◆1-4月の繊維産業の業績、投資に関する主要指標をみると、主要業務収入は11.3%増と2桁増を維持したが、利潤は2.3%減と減益、繊維産業の実際完成投資は17.1%増、化繊産業は24.6%増と、その伸びは鈍化している。就業人数は前年同期比0.6%減の987万人と減少に転じている。
- ◆繊維産業の衣料用内需は比較的好調に推移している。1-3月の繊維品商品売上は前年同期比14.6%増となった。一方、物価指数は前年同期比3.6%増となった。

合繊4品種需要実績

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2012年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	20,284	99.4	93.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	52,410	104.2	100.3
	計	72,694 (29,790)	102.8 (100.1)	98.2 (98.0)
輸出 (原糸、加工糸)		4,500	102.0	105.3
需要計		77,194	102.7	98.6
在庫		13,779	80.4	95.2

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2012年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	5,132	93.5	96.9
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	32,449	95.2	98.2
	計	37,581 (7,415)	98.3 (91.5)	101.4 (90.0)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		6,676	127.2	73.2
需要計		44,256	101.8	95.8
在庫		22,472	96.6	114.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2012年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	9,195	95.7	89.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,158	98.4	98.4
	計	25,353 (6,006)	97.4 (100.0)	94.8 (84.3)
輸出 (原糸、加工糸)		5,609	105.3	146.1
需要計		30,962	98.7	101.2
在庫		8,931	99.2	88.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2012年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	7,123	126.8	94.7
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	2,739	113.6	99.6
	計	9,862 (337)	122.8 (94.1)	96.0 (189.3)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		28,669	109.4	104.3
需要計		38,531	112.5	102.1
在庫		9,945	94.1	116.9

(注)国内需要の()内数値は輸入量